

# TCU Quarterly

—都市大だより—

2018.DEC.

No.210

平成30年12月21日発行

東京都市大学 企画・広報室

東京都世田谷区玉堤1-28-1 TEL.03-5707-0104 <http://www.tcu.ac.jp>

## CONTENTS

- 02 特集1 創立90周年記念 連載企画:  
第2回 都市大ヒストリー
- 04 特集2 平成30年度 東京都市大学  
優秀研究賞・優秀教育賞・ベストレクチャー賞
- 06 特集3 東京都市大学 第2回 APシンポジウム
- 08 学生と大学との懇談会
- 10 第89回 東京都市大学 世田谷祭  
第10回 東京都市大学 等々力祭
- 12 永年勤続者表彰
- 13 大学と保護者との連絡会
- 14 第7回 FD・SDワークショップ
- 15 学生選書ツアー 2018
- 16 研究紹介
- 17 PERSON/BOOKS
- 18 NEWSラウンジ/夢キャン通信
- 20 Information  
(2019年度一般入試日程/特待生制度・  
留学プログラム奨学生制度)

### 特集

創立90周年記念 連載企画:都市大ヒストリー

## 第2回 都市大グループの祖 五島慶太翁と東横学園



第2回

都市大グループの祖 五島慶太翁と東横学園

# 都市大グループの 礎を築いた五島慶太翁



創立90周年記念 連載企画の第2回は、都市大グループの祖 五島慶太翁にスポットライトを当てます。

東急グループを創業した実業家として知られる慶太翁は、熱と誠を持った教育者でもありました。東横学園の開校、五島育英会の設立までの軌跡を辿ります。

実業家として華々しい足跡を残した五島慶太翁は、沿線の文教都市化の推進に加え、武蔵工業大学や東横学園などの教育事業においても大きな功績を残しています。

教育者として

社会人の第一歩を踏み出した慶太翁

今から136年前の1882年、長野県小県郡青木村に生まれた慶太翁は、学校(旧制中学)まで片道12kmの山道を雨の日も雪の日も毎日歩きとおすなど、大変な苦学力行をし、それでも人より2年も早く中学校を卒業して、18歳で母校の青木村尋常高等小学校の代用教員となり、社会人としての第一歩を教育者として歩み始めました。教壇に立つ傍ら、上級学校へ進学するための勉強も続け、1902年、官費給費である東京高等師範学校(現在の筑波大学)英語科に進学、卒業後は三重県立四日市商業学校で英語教師を務めます。その後、一念発起して1906年、東京帝国

五島慶太翁 歩み

1882年《生誕》

長野県小県郡青木村に生まれる。



五島慶太翁の生家

1900年《18歳》

松本中学校を卒業し、青木村尋常高等小学校の代用教員となる。

1902年《20歳》

東京高等師範学校入学



前列左から2人目が五島慶太翁

1939年《57歳》

東横商業女学校開校



1940年《58歳》

財団法人東横学園理事長に就任。

東横商業女学校の名誉校長に就任。

熱誠

人の成功と失敗のわかれ目は第一に健康である。次には熱と誠である。体力があつて熱と誠とがあるならば必ず成功する。

大学法科大学（現在の東京大学法学部）に入学。卒業後は、農商務省に入省、その後は、鉄道院を経て実業界に身を転じます。

## 実業界での大成功と 教育事業への深い関心

退官後、武蔵電気鉄道の常務に就任した慶太翁は、国の繁栄と産業発展のため教育事業の推進にも意欲を燃やします。沿線に東京工業大学や慶應義塾大学、東京学芸大学などの大学を次々と誘致し、東急の主要な沿線を文教都市化させたのです。また、本学の前身である武蔵高等工科学校の目黒区大岡山への校舎移転（1932年）や現在の世田谷区玉堤への移転（1939年）の際には、請われて絶大な支援も行いました。

やがて、私財を投じて自らが理想とする学校をつくりあげること決心し、1939年4月、東横商業女学校（後の東横学園女子短期大学）を開校しました。「時勢は如何なる女子を要求するか」と題した開校式・式辞で慶太翁は、新しい時代にふさわしい、真に



開校当時、東横商業女学校の玄関は、代々木にあった紀州徳川家の玄関を譲り受けて移築した。



慶太翁は真の日本的女性の育成をめざし、理論や講義だけでなく実践的な授業にも力をいれた。



[1・2] 東横学園女子短期大学の校舎 [3] 校舎新築竣工式での慶太翁

有能な日本的女性の育成のためには、「理論や講義でなく、すべて実践によって習得させたいと考えております」と述べ、卒業生が自立し、活動的に生きられるようにと、珠算やタイプライターなど職業的な技能の習得にも力を注ぎました。

## 五島育英会の設立と時を同じくして 総合大学化構想を公に

1955年、慶太翁は学校法人東横学園と学校法人武蔵工業大学を合併し、学校法人五島育英会を誕生させ、幼稚園から大学までの教育体制を整えます。

その頃、「将来、慶應、早稲田に匹敵し得る総合大学になる日も遠くないと確信している」と慶太翁は公言しています。時に慶太翁73歳。その晩年は人生訓である「熱誠」をもって、教育事業に邁進しました。

武蔵工業大学と東横学園女子短期大学を統合し、東京都市大学が誕生、総合大学としてのスタートを切ったのは、2009年4月1日。慶太翁の逝去から50年後のことですが、そのビジョンは五島育英会を創設した時、すでに慶太翁の頭の中に、思い描かれていたのです。

次号No.211 [2019年3月発行]では、「学の充実 一学部の変遷」を紹介（予定）します。

1906年《24歳》 1911年《29歳》 1912年《30歳》 1913年《31歳》 1920年《38歳》 1922年《40歳》 1924年《42歳》

東京帝国大学入学



法学部政治科  
在学の間（前列右）

東京帝国大学を卒業し、  
農商務省の嘱託となる。

久米萬千代と結婚。  
小林慶太から  
五島慶太に改姓。



農商務省嘱託を解かれ  
鉄道院勤務となる。



監督局総務課長を最後に、  
請われて武蔵電鉄に入り、  
次いで目蒲電鉄建設に着手。

鉄道省を退官。  
武蔵電気鉄道(株)の  
常務取締役就任。

目黒蒲田電鉄(株)  
を設立。

武蔵電気鉄道(株)を  
東京横浜電鉄(株)に変更し、  
専務取締役就任。

1942年《60歳》

東京横浜電鉄(株)が  
小田急電鉄(株)、  
京浜電鉄(株)と合併し、  
東京急行電鉄(株)に商号変更。

1944年《62歳》

運輸通信大臣に就任。



1952年《70歳》

○東京急行電鉄(株)の  
取締役会長に就任。

1955年《73歳》

学校法人東横学園と  
学校法人武蔵工業大学を合併して  
学校法人五島育英会を設立。  
理事長に就任。

1956年《74歳》

○東横学園  
女子短期大学を開学。  
○学校法人亜細亜学園の  
理事長に就任。

1959年《77歳》

○逝去(8月14日)。  
○生涯の功績に対し、  
正三位勲一等に叙せられ  
瑞宝章を授与される。